

## 第 34 回福島・毛馬出張所管内河川レンジャー運営会議 議事要旨

第 34 回会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、書面開催とした。

運営会議委員の 2/3 以上である委員 17 名から回答を得た。主な意見は以下のとおりである。

### 1. 議題

- (1) 令和 3 年度上半期の河川レンジャーの成果と課題について
- (2) 淀川発見講座およびレンジャー養成講座の開催について
- (3) 淀川水系一斉美化アクションの報告と今後の予定について
- (4) 今後のスケジュール

### 2. 主な意見等

- (1) 令和 2 年度上半期の河川レンジャーの成果と課題について

#### 1) 平井レンジャー

- 2 期目として Step2 から、さらに Step3 に発展させる活動を企画されていたが、下半期はぜひ実施型で企画開催してほしい。

#### 2) 桑村レンジャー

- 活動目的は平井レンジャーとの共通項目が多いため、下半期は平井レンジャーの活動にも積極的に参加することで活動のスキルを身につけてほしい。活動計画の目標はあまり欲張らず、1 期目に入る来年度は Step2 を見据えながらも Step1 をまず充実させることに努めてほしい。

#### 3) 森レンジャー

- 自然観察の機会を利用して防災の学習、あるいはその逆は、やり方としては推奨する。当管内には、そのようなやり方で地域や学校と繋がりをもって優れた実績を上げている複数のレンジャーアドバイザーがいるので、是非その方たちの活動にも積極的に参加・協力してスキルアップに繋げてほしい。また、ニッチとなっている福祉施設と連携した活動も次年度からの活動を目指し、下半期には施設等との信頼関係を構築してほしい。

#### 4) 山本レンジャー

- 当管内には、地域や学校と繋がりをもって優れた実績を上げている複数のレンジャーアドバイザーがいるので、その方たちが企画・実施される活動にも企画段階から積極的に参加協力してスキルを身につけてほしい。また、地域に群生するヨシを使った活動を企画されているが、材料の調達活動等の時期を逸しないよう、また西中島地区では業者による刈り取りが広域的にされているので、十分に留意する必要がある。

#### 5) 阿部レンジャー

- 2期3年目になるが、Step1で留まっているような印象を受ける。淀川の未来について考える学生ネットワークの構築はたいへん良い試みだと思うが、そのための具体的な進め方について、どのように考えているのかがよく伝わってこない。上半期の総括欄が空白になっているのは憂慮すべきことかと思う。

#### 6) 伊藤レンジャー

- コロナ禍で活動の大きな制約のある中、河川レンジャーとしてさまざまな役割をよく果たしているように思う。下半期は、2期4年目に向けてStep4の達成を見据えた活動の計画・準備期間としても十分に活用されることを期待する。

#### 7) 岸田レンジャー

- 試行期間の上半期はコロナ禍による活動の大きな制約を受けたが、下半期の活動再開に向けてのさまざまな情報収集をおこない、他の管内のレンジャー活動にも参加・協力し、スキルを身につける努力をされていたかと思う。さまざまな季節でどんな活動ができるか、情報を蓄積して行ってほしい。

#### 8) 谷口レンジャー

- 試行期間の上半期はコロナ禍による活動の大きな制約を受けたが、下半期の活動再開に向けてのさまざまな情報収集をおこない、先輩レンジャーの活動を学び、新しい地域で実施することで新規の地域からの参加者を発掘する企画も立てた。淀川の自然を学ぶ中で、河川ゴミ等の課題にも言及していることは非常に大切なことであると考え。さまざまな季節でどんな活動ができるか、情報を蓄積して行ってほしい。

## (2) 淀川発見講座およびレンジャー養成講座の開催について

- 淀川は琵琶湖から大阪湾まで大変広い流域であることから、オンライン開催でどこからでも気軽に聴講できることは大きなメリットである。これをチャンスととらえ、特に若年層へのすそ野を広げられるような内容の講座開催を検討してほしい。
- 参加者が講座を何で知ったかのアンケート結果では、「その他」と回答された方が 28%を超えている。具体的にどのような方法で知ったのかの紹介があっても良いのではないかと。各沿川自治体の広報への協力状況を知りたい。

## (3) 淀川水系一斉美化アクションの報告と今後の予定について

- SDGs への関心の高まりから、水環境やごみ問題に取り組みたいという学校や企業から区役所あてに問い合わせをいただくことが増えている。WEB 版一斉美化アクションは、ぜひ今後も継続してほしい。
- 広報にあたって、河川ゴミは単に景観上の問題だけでなく、具体的にどのような問題を引き起こしているかについてもしっかり言及してほしい。
- 大阪市では「ゴミ」を「ごみ」と表記を統一しているようだ。

## (4) その他

- 様々な年間活動を企画されているにもかかわらず、開催中止となってしまうことは非常に残念で、仮に緊急事態宣言下でもイベントが開催できるように zoom や Skype を活用した講座や教室なども企画に加えてほしい。
- 西岡レンジャーアドバイザーによる十三干潟での観察会を実施したことは非常に貴重な活動である。開催にあたり、木川南小学校の先生方や亀井レンジャーアドバイザーの協力も活動実施の際に大きかったかと思うが、何よりも子どもたちにコロナ禍にあって生き物の体験、実物教育ができたことは非常に意義深いと思う。「参加者からの意見」として、子どもたちからの質問や疑問についても回答し、子どもたちの生き物への好奇心を育て、今回の活動がきっかけとなり淀川への新たな関心が深まるのではないかと感じた。
- ICT 教育を積極的に推進している大阪市にあって、コロナ禍の合間を縫って子どもたちは地域の環境からリアルで学ぶというかけがえのない貴重な体験を、河川レンジャー活動を通して実施できている。過去の実績もさることながら、当該校の現校長先生の理解と子どもたちの教育に対する情熱にも支えられた結果であると思う。
- 参考資料の表中にある学校関係の「用務員」という表現については、現在は使われていないため、「管理作業員」という表現に修正してほしい。

以上